

帝塚山学院幼稚園

2025年度 学校評価報告書

1. めざす幼稚園像

初代学院長庄野貞一が提唱する「力（意思の力、情の力、知の力、躯幹）の教育」を推進するとともに、教育理念の「人として生きる力を育てる一高い志、豊かな感性、他への思いやり」を実践する。

また、「挨拶」「けじめ」「思いやり」といった伝統として受け継がれる教育目標を継承しながらも、グローバル社会を生きるための基礎を育む保育内容、保育環境を整える。

2. 中期目標

（1）エンロールメント・マネジメントの強化

- ①体験型プロジェクト保育の実施
- ②ICT 機器を利用した教育活動の研究
- ③食育活動の実施
- ④SDG s への取り組み
- ⑤表現力・語彙力の向上
- ⑥安全教育の継続
- ⑦運動能力・体力の向上
- ⑧マナー教育の充実

（2）指導力向上

- ①教員研修・園内研修の実施
- ②安全教育・救命技能の向上
- ③人事考課制度・評価の実施
- ④保育マネジメントの充実

（3）保育環境の充実

- ①保育環境
- ②園庭環境

【保護者アンケート結果と分析】2026年2月実施アンケート

- 全体を通じて、前年度と比較し高い評価を示した。とりわけ教育方針や保育内容に関しては、設問「園児の心が動く、多種多様な体験ができるような保育を実践している。」及び「園行事は楽しく工夫されたものであり、充実している。」の2項目は最も評価の高い「十分に達成している」が90%を超え、「達成している」を加えるといずれも100%となり非常に高い評価であった。具体的には、年長組の年間を通じて日本文化に触れる体験や、年中組の小麦粉プロジェクト、年少組もひとつひとつの保育活動で園児の心が動く工夫がされていた。これらが保護者からの高評価につながったと考えられる。また、課題であった外国語プログラムについても評価の改善が見られた。年間を通じて同じ講師が担当し一貫した外国語プログラムを習得できたことが改善につながった。
- 次に、教育環境の項目においては、特に「防犯カメラ・オートロック等の安全管理」「預かり保育の開設」「夕食の提供」の3項目で評価が高かった。両親共に就労している家庭が増加し、預かり保育の開設だけでなく夕食提供等、内容の充実も高く評価された要因である。また、安全管理に関しては、本年度の評価は高かったが、引き続き安全管理の徹底は望まれる。
- 家庭との連携の項目では、幼稚園と家庭双方の信頼関係の高さが評価された。具体的には「子どもの様子や保育活動を、Instagramや教員ブログなどを通してできるだけ分かりやすく発信している。」の項目では、95.8%が「十分に達成している」及び「達成している」と回答しており、幼稚園からの日々の発信が保護者への安心感となっている。また、「早寝、早起き、朝ごはんを家庭で実践している」や「家庭の中で挨拶をさせている」等、家庭内でのご努力も高く、それが円滑な幼稚園生活につながっていると考えられる。双方の信頼関係の高さを維持するためには、今後もきめ細かで丁寧な対応が必要不可欠である。

【学校関係者評価委員会からの意見】

【学校評価に関して】

園の分析は、保護者の声を真摯に受け止め、本年度の取り組みや環境整備の強みを具体的に挙げられています。

特に年長組の日本文化体験や年中組の小麦粉プロジェクトなど、学年ごとの発達に合わせた体験型教育の充実は非常に説得力があります。

課題であった外国語プログラムも、講師の継続性という改善策により満足度が向上しており、園の柔軟な対応が評価されます。

安全管理の強化や、預かり保育・夕食提供の充実は、多様な家庭への力強い支援となっており、園の子育て支援に対する熱意が伝わります。

今後も安全管理を徹底しつつ、保護者と密に連携したさらなる教育環境の向上を期待します。

【保護者による学校評価に関して】

保護者アンケートでは保育内容への評価が極めて高く、特に行事の工夫（設問9）や多種多様な体験（設問10）で90%以上が最高評価の「5」と回答している点は大きな成果です。実体験を通じた教育が、保護者に深く支持されていることが数字に表れています。

また、SNS等の情報発信（設問31）も約96%が肯定的で、園での活動の可視化が家族の安心感に繋がっています。安全管理（設問26）や夕食提供等の子育て支援（設問32, 34）もほぼ全ての家庭が満足しており、時代のニーズに即した園の姿勢が信頼関係を強固にしています。今後も質の高い教育と手厚いサポートを継続し、家庭と歩みを共にする新しい工夫を期待しています。

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化

今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度(%)	自己評価	課題と改善策
(1) 教育の質の保証 (教育の質の保証) ① 体験型プロジェクト保育の実施	① 体験型プロジェクト保育の実施 ・活動中に就学に向けた準備を意識する。 ◆生活する力 ◆かかわる力 ◆学ぶ力	年中：大豆プロジェクトを実施 年長：探そう 日本のキラキラプロジェクト実施	100%	・大豆食品に興味を持ち日常生活の中でも意識が芽生えた。 ・年長：コメの栽培、和菓子作りなど日本の文化を探究できた。	・子どもの習得率は家庭の意識により差が大きい。
② ICT機器を利用した分かりやすい教育活動の研究。	②ICT 機器を利用した子どもの主体性を育む保育	③ 具体的実践活動の発表	100%	・保育活動のなかで分かりやすい保育を意識することができた。	
③食育活動の実施	② テーマ：「育てるを楽しむ」をもとに食育活動を実施	④ クッキングの実践	100%	・それぞれの学年で野菜を栽培し、そのおいしさを楽しむことが出来た。	
④SDG s への取り組み	③ テーマ：「リサイクルに役立つマークを知る」	④テーマに沿ってどんな活動ができたか検証	80%	・リサイクルマークからごみの分別について知ることが出来た。	
⑤表現力・語彙力の向上 ・絵本の扉リニューアル実施	⑤・絵本の扉の活用 ・絵本の読み聞かせ年間「150冊」実施 ・年長、年中音読活動を実施	⑤ ・読み聞かせ実施結果 ・音読の具体的活動結果	100%	・読み聞かせは毎日実践することが出来た。音読は年中より実践。年少児も6月頃には絵本に興味を示し始めた。	

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化

今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度(%)	自己評価	課題と改善策
⑥安全教育の継続	⑥安全教育の継続 ・災害時の単独避難行動教育の充実 ・緊急地震速報受信システム活用 ・避難防災訓練 年間5回実施 ・園児と共に園生活での危険な行動や場所を確認。	【避難訓練】 年2回 5月・11月実施 【防災訓練】 年3回 6月・9月・1月実施 【点検】 1学期・2学期に実施	100%	・防災教育、安全教育は計画通り実施できた。 ・3学期には80秒程度で点呼を完了することが出来た。	
⑦運動能力・体力の向上	⑦運動能力・体力の向上 ・「縄跳び」への取り組み ・戸外遊び時間の確保と充実 ・年長：ドッジボール サッカー	【目標実施回数】 ・総合遊具の活用 ・縄跳びチャレンジ 【お箸を正しく使える】 年少:60% 年中:75% 年長:100% 【鉛筆を正しく持つ】 年少:70% 年中・長:100% 【ハサミを使う】 年少:85% 年中・長:100%	100%	・保護者も見守りも定着し、総合遊具の活用は以前にも増して活用できている。 ・年長児はドッジボールにとっても積極的に取り組み夢中になる姿が見受けられた。 【お箸を正しく使える】 年少:55% 年中:75% 年長:90% 【鉛筆を正しく持つ】 年少:90% 年中:91% 年長:94% 【ハサミを使う】 年少:96% 年中:96% 年長:98%	
⑧マナー教育の充実	⑧マナー教育の充実 ・挨拶、お礼が素直に言える ・年長児は敬語を意識する ・お箸検定の実施 ・鉛筆検定の実施(年少) ・はさみ検定の実施(年少)				・1学期の子どもたちの様子を見て担任は夏休みの課題を検討していた。

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化

今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度(%)	自己評価	課題と改善策
(2) 指導力向上 ①教員研修・園内研修の実施	①・外部研修への参加 ・理論と実践を繋ぐ研修会を実施		70%	・積極的に研修に参加をしようとしていた。しかし、人員の不足や業務の多さから多くの研修に参加は難しい状況。	・上質な教育を提供するためには研修に参加することは欠かせないが、人員不足、日々の業務の多さから教員、管理職ともにインプットをする時間が設けられないのが現状。
②くぼた脳研の活用	②・くぼたのうけんの研修会、セミナーに参加		0%	・くぼたのうけんの研修には時間が合わず参加することが出来なかった。	
③安全教育・救命技能の向上	③普通救命講習を受講		100%	・全教員が参加できた	
④人事考課制度、評価の実施	④・個々の教員の役割や目標を明確に伝える。 ・目標達成のための具体的行動を確認する。 ・自己点検シートの活用	④各教員との面談実施により確認。	100%	・各教員と面談を施。それぞれの課題や目標を共有することが出来た。	

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化

今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度 (%)	自己評価	課題と改善策
⑤担任ローテーションの実施	④ 担任ローテーションの実施のための人材育成と人材の確保。 ・専任教員の増員。 ・子育て支援員の増員検討 (早朝～夕食に対応)		70%	・人材の育成に時間がかかるため、専任教員の増員が必要不可欠。	
⑥保育マネジメントの充実	⑥【園長、副園長、担任間で】 ・目標、目的を明確に定め、共有する。 ・目標、目的を達成するための手段や方法を助言する。 ・組織としての目標に対して、個人の目標や役割を明確にする。		100%	・目標管理について各教員と共有することが出来た。	
(3) 保育環境の充実	①・年少・年中保育室扉の改修 ・通用門雨天時の対策 ・玄関広場手洗い場改修		70%	・保育室扉の改修は終了 その他は次年度に持ち越し。	
①保育室環境 ・老朽化施設の改修					
②園庭環境 ・冒険山改修工事	・冒険山腐食部分の改修		100%	・園庭環境については、老朽化した箇所は随時改修を実施。 ・自園給食については、場所の確保が課題。	
③自園給食の実施 ・食育を更に特化させる	③現在の環境を維持した状態で、自園給食の実施を検討。				